



ソマノベース

土砂災害による人的被害をゼロにする

会社紹介資料



はじめに

- ソマノベースについて
- ソマノベースが取り組む課題
- ソマノベースの活動方針

サービス紹介

- サービス一覧
- toC事業
- toB事業

事例紹介

その他の取り組み

はじめに

- ー ソマノベースについて
- ー ソマノベースが取り組む課題
- ー ソマノベースの活動方針

サービス紹介

- ー サービス一覧
- ー toC事業
- ー toB事業

事例紹介

その他の取り組み

株式会社ソマノベースは、代表の奥川が、2011年の紀伊半島大水害による土砂災害の被災に遭ったことがきっかけで立ち上がりました。壮大なミッションではございますが、「土砂災害が起きない山づくり」を目指し、他業界の企業様・個人の方を巻き込みながら、「防災」「森林保全」に関わる事業を展開しております。

ソマノベース

VISION

「土砂災害の人的被害をゼロにする」

ソマノベースの始まりは、2011年紀伊半島大水害による被災体験から。山づくりから、防災まで「土砂災害による人的被害」に繋がるすべての問題を解決する。災害を一面から解決するのではなく、まち全体を俯瞰して観察し、解決に繋がる取組を行う。

代表 奥川が経験した
「紀伊半島大水害」



現在も日本中にリスクがあり、
国の対策にも限界がある。



市町村の92%が、
土砂災害危険区域保有

R2年の水害被害額は6,600億円。
国家予算で賄えるのは1,443億円(R3)。

MISSION

「林業を通して災害リスクの低い山を増やす」

「コストがかかる」「利益に繋がらない」「方法がわからない」等の理由により、災害リスクの低い山づくりが進まない現状があります。このような現状の背景にある課題に取り組み、適切な山づくりができる環境を整えることで、土砂災害リスクの低い山林を日本中に増やします。



代表取締役

奥川季花

和歌山県出身

経歴

同志社大学商学部卒（2018） / (株)ボーダレス・ジャパン（2018～2019） / NPO法人土砂災害防止広報センター（2019～2020）
/ 公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト（2019～2021） / (株)中川※和歌山の林業会社（2019～現在） /
(株)ソマノベース（2019～現在※2021.5に法人化） / 森林トラスト(株)（2022～現在）

掲載実績

メディア掲載等 100件以上



中小企業庁
小規模事業白書事例掲載
(2022年版)



林野庁
「革新的造林モデル普及業務事例集」
事例掲載

ディスカバー 農山漁村の宝

農林水産省
「ディスカバー農山漁村の宝」登壇



NHK「おはよう日本」
「ニュースホット関西」
「ぎゅぎゅっと和歌山」

朝日新聞
DIGITAL

朝日新聞(紙面)・
朝日新聞デジタル掲載

日本経済新聞



日経新聞
日経デジタル掲載
(2023年)



MORE 7月号掲載
(2023年)

読売新聞



読売新聞(紙面)・
読売新聞デジタル掲載

毎日新聞



毎日新聞(紙面)・
毎日新聞デジタル掲載



『pen』『ソトコト』『神籬』等
雑誌掲載



イナズマロックフェス
Official Youtube Cannel
に出演(3回)



関西テレビ「報道ランナー」



内閣官房発行
国土強強化 民間の取組事例集
(2023年)



現代林業2月号
表紙掲載



テレビ和歌山
ここ押し!

表彰実績



100BANCH 「ガレージプログラム」
採択（個人事業）



林野庁・Spero主催「Sustainable
Forest Action」優秀賞（個人事業）



林野庁補助事業「Wood Change
Award 2020」ブロンズ賞



「わかやま地域課題解決型起業支援補
助事業」採択

たなべ
未来創造塾

田辺市「たなべ未来創造塾」採択



経済産業省「わたしの起業応援団によ
る女性起業家支援プログラム」採択



岡山県真庭市/ロフトワーク「SDGs ビ
ジネスプロジェクト創出プログラム」
選出



「林業分野における新技術推進対策事
業費補助金森林づくりへの新技術導
入・実証事業」採択



株式会社日本政策投資銀行主催
「DBJ女性新ビジネスプラン
コンペティション」優秀賞受賞



一般社団法人
日本ウッドデザイン協会主催
「ウッドデザイン賞2022」受賞



和歌山県
「第22回わかやま環境賞」
受賞



和歌山県
「令和4年度認定創業者」認定

はじめに

- ー ソマノベースについて
- ー **ソマノベースが取り組む課題**
- ー ソマノベースの活動方針

サービス紹介

- ー サービス一覧
- ー toC事業
- ー toB事業

事例紹介

その他の取り組み

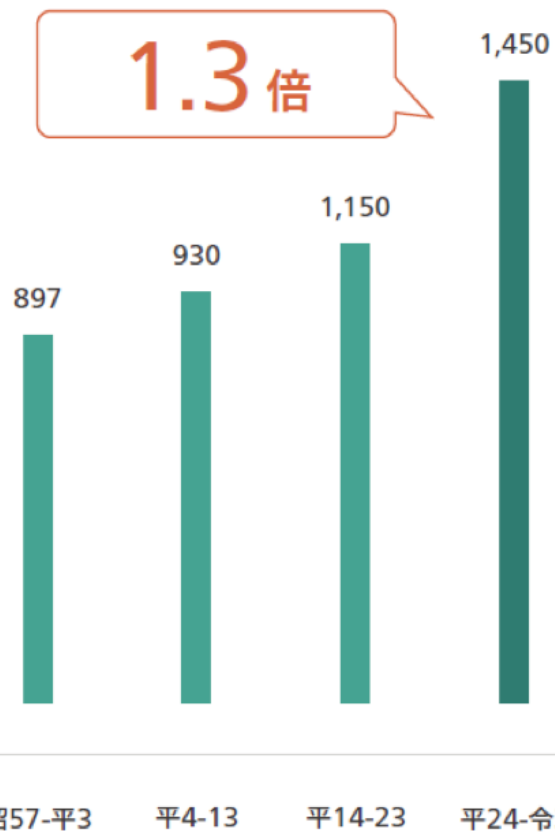
災害危険区域の数

市町村の **92%** が土砂災害危険区域保有

※1606/1742市町村

【参照元】平成29年版 防災白書|附属資料22
市町村別の土砂災害危険箇所の状況

発生件数



令和2年の水害被害(土砂災害・洪水等)は、

6,600 億円

災害が多かった令和1年は、

2兆超

土砂災害対策に関する国家予算は、

1,443 億円 (令和3)

【参照元】国土交通省 報道発表資料(令和4年8月31日)

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_001133.html

「林業を通して土砂災害リスクの低い山林を増やす」



土砂災害発生には**地質・雨量**等が大きく関与する。
その中でも**林業**が関与する発生リスクを抑える。

林業と土砂災害

管理放棄



間伐や測量がされていない山林も増加

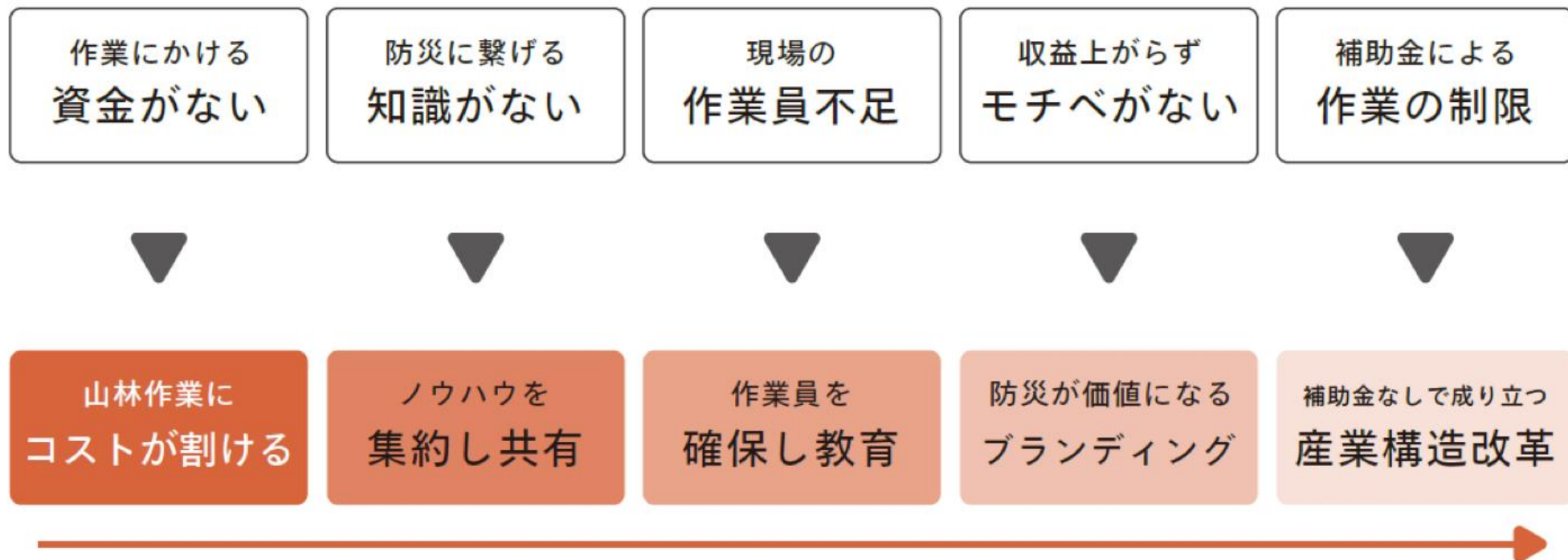
植栽放棄



皆伐地のうち約6割は植林されていない

管理不足の山林は土壌が緩み、土砂災害リスクの高い山林に

林業界の課題と解決策



他業界の方を巻き込みながら、一つずつ課題解決を進めていく

はじめに

- ー ソマノベースについて
- ー ソマノベースが取り組む課題
- ー **ソマノベースの活動方針**

サービス紹介

- ー サービス一覧
- ー toC事業
- ー toB事業

事例紹介

その他の取り組み

ステークホルダーの課題解決

企業や個人

淡白・単発で障壁の高い
森林 SDGs や CSR 活動



企業課題を解決する
森林保全活動の提案と先導

林業事業者

他業界との関わり方が
わからない



企画等が必要な案件を受託
新規案件を委託

自治体・行政

新しい補助金の活用法
や企業を動かさない



地域課題を解決し
独自性のある PJ を企画・主導

林業界と他業界を繋ぐことで、
双方の課題解決に寄与できる仕組みづくりを進める

森林への関係人口を増やししながら、事業を展開する。



林業界と他業界、それぞれを繋ぐ通訳者として事業を行い、
社会を巻き込みながら“防災”“森林保全”を進めていくのがソマノベースです。

林 業 × 中 間 地 点 × 他 業 界



業界交流



資源調査



戻り苗



戻り苗



セミナー



教育事業



若手林業家支援



デジタル支援



視察・ツアー



カーボンオフセット



ワークショップ



プロダクト開発

ソマノベースは森づくりを、
「やらなければいけないこと」から、「やりたいこと」へ変えていきます。

SDGs や社会貢献活動に求める意見



社内外にもっと事業をアピールしたい。

学ぶ機会を得たい。

独自性のある事業がしたい。

社内の環境の改善に努めたい。



現場の森林保全活動に対する意見



単発で淡白な取り組みになってしまう。

効果が見えない。

社内や社外を巻き込めない。

林業家とうまく連携できない。



はじめに

- ソマノベースについて
- ソマノベースが取り組む課題
- ソマノベースの活動方針

サービス紹介

- サービス一覧
- toC事業
- toB事業

事例紹介

その他の取り組み

MODRINAE

toC

苗木を育て、森に戻す観葉植物

どんぐりから木を育て、育てた木を森に戻す新しいカタチの観葉植物です。



MODRINAE for BUSINESS toB

オフィスで苗木を育て、森に戻す観葉植物

オフィスにしながら森林保全に貢献できる新しい形の観葉植物を提供します。



アドバイザー

toB

知ることから、森林に関わる取り組みに向き合う

これまで当社が蓄積してきた森林の知識や林業関係者とのつながりを活用し、森林に関する新規事業の立案や森林保全活動等を支援します。



研修・ワークショップ

toB

研修を通して、環境問題を自分ごと化する

森林産業・林業界に関わる専門知識や取り組みについてのインプットとアウトプットの場を提供します。



森林研修・林業ツアー

toB

現場を巡ることで、森林・林業のリアルを学ぶ

森林をフィールドにしたツアーを通して森林や林業についての学びを提供します。



コミュニケーション促進

toB

戻り苗を活用して、顧客との関係構築を設計

「戻り苗」を、貴社オリジナル仕様に。デザインや樹種・山林の場所をカスタマイズします。



広報支援

toB

森林保全の取り組みを通して、SDGsの取り組みを発信する

当社として様々な取り組みをご支援するとともに、その取り組みの発信も合わせてご支援します。



森林保全スポンサー

toB

2024年リリースに向けて
現在準備中

都市緑化

toB

2024年リリースに向けて
現在準備中

はじめに

- ソマノベースについて
- ソマノベースが取り組む課題
- ソマノベースの活動方針

サービス紹介

- サービス一覧
- **toC事業**
- toB事業

事例紹介

その他の取り組み

MODRINAE

toC

苗木を育て、森に戻す観葉植物

どんぐりから木を育て、育てた木を森に戻す新しいカタチの観葉植物です。



MODRINAE for BUSINESS toB

オフィスで苗木を育て、森に戻す観葉植物

オフィスにしながら森林保全に貢献できる新しい形の観葉植物を提供します。



アドバイザー

toB

知ることから、森林に関わる取り組みに向き合う

これまで当社が蓄積してきた森林の知識や林業関係者とのつながりを活用し、森林に関する新規事業の立案や森林保全活動等を支援します。



研修・ワークショップ

toB

研修を通して、環境問題を自分ごと化する

森林産業・林業界に関わる専門知識や取り組みについてのインプットとアウトプットの場を提供します。



森林研修・林業ツアー

toB

現場を巡ることで、森林・林業のリアルを学ぶ

森林をフィールドにしたツアーを通して森林や林業についての学びを提供します。



コミュニケーション促進

toB

戻り苗を活用して、顧客との関係構築を設計

「戻り苗」を、貴社オリジナル仕様に。デザインや樹種・山林の場所をカスタマイズします。



広報支援

toB

森林保全の取り組みを通して、SDGsの取り組みを発信する

当社として様々な取り組みをご支援するとともに、その取り組みの発信も合わせてご支援します。



森林保全スポンサー

toB

2024年リリースに向けて
現在準備中

都市緑化


toB

2024年リリースに向けて
現在準備中

MODRINAE

森林保全に関われる新しいカタチの観葉植物「MODRINAE」。植林用苗木を、どんぐりから2年間オフィスや自宅で育て、植林して山に返す体験型プロダクトです。

<https://modrinae.myshopify.com/>



木を育てて、
未来に残す
新しい観葉植物。



WOOD CHANGE
AWARD 2020



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2022

MODRINAE

2年間という限られた期間のみを共に過ごす観葉植物です。育てていただくのは、植林用の苗木。

どんぐりから発芽して山に植林するまで、一人ひとりが楽しみながら、そして責任感を持ちながら育苗（いくびょう）を行います。オフィスで育てていただくことで従業員様同士やご来社されるお客様との会話のきっかけが生まれます。

戻り苗の仕組み

どんぐりを育て始める



2年間で立派な苗木に



苗木を山に返す



参加者だけができることも



育てて、植えて、伐って、使う。
かつて森と人の間に流れていた、
循環を再提案していきます。



苗木と鉢のサイズについて

苗木の高さ
15~30cm

木鉢の高さ
18cm

木鉢の幅
14cm



育て方はとてもシンプルなので、どなたでも育てていただけます。必要なのは定期的な水やりのみ。長期休暇の際は水を多めにあげていただければ問題ございません。育苗に困った際は樹木医に相談することも可能です。また、どんぐりから発芽しなかった、もしくは発芽後に枯れてしまった場合には、再チャレンジいただけます。

戻り苗の育て方



室内の明るい場所に、戻り苗を設置します。



どんぐりの時は表面が乾かない程度に水を。



2年間育ったら、指定の方法で苗木を返送。



芽生えてからは、2~3日に一度は水を。

直射日光を避けた明るい場所で育ててください。
詳しくは育て方ページをご覧ください。

育苗で困ったら ...



参加者限定公式 LINE に
ご招待しています。

苗木の調子や困り事を
相談できます。



どんぐり補償付き。

稀に発芽しなくても、
枯れても安心。



価格帯



MODRIANE 1 個
12,100円（税・送料込）



MODRIANE レーザー加工 1 個
14,300円（税・送料込）

※レーザー加工は加工面積によって価格が異なります。

内容物

- 木鉢（1個）
 - 土（1袋）
 - どんぐり（5つ）※ウバメガシ・カシ類からお選びいただけます
 - 栄養剤（2つ）
 - 育苗用コンテナ（1つ）
 - 水受け皿（1つ）
- ※その他2年間の育苗サポート（公式LINEでの相談・どんぐりの再配送等が含まれます）

木鉢



水受け皿



育苗用コンテナ



どんぐり



土



栄養剤



植 林場所は田辺市龍神村の皆伐地を予定しており、植林後の管理は和歌山県の造林会社株式会社中川に委託して行います。
なお、和歌山県の造林業者や森林所有者と連携し、植樹先を安定確保しております。

※株式会社中川 | 「木を切らない」和歌山の林業の会社

旧 龍 神 村

苗木たちが戻る場所は、和歌山県の中央部に位置し、古くから林業が盛んであった旧龍神村（りゅうじんむら）。

MODRINAE



Topics

【国土強靱化】

内閣官房発行「国土強靱化 民間の取組事例集」
に取り上げていただきました。

国土強靱化

顧客を守る！ ▶顧客の生活を支える	レシリエンスに特化した商品やサービスをつくる
017	取組主体 株式会社ソマノベース
	MODRINAE(戻り苗)を通じて再造林の 促進と森林の土砂災害リスクを軽減
	従業員数 想定災害 実施地域 6人 全般 和歌山県
・植林用苗木をどんぐりから観葉植物として育てる「MODRINAE(戻り苗)」を開発・販売し、再造林を進めることで、森林の土砂災害リスクを軽減させる。若年層への「防災×森林」における課題の理解も進める。	
1 取組の特徴 (はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点)	

「土砂災害による人的被害をゼロにする」

・森林の土砂災害リスクの軽減を目指し、山林活用支援事業、木育事業等を手掛ける株式会社ソマノベースは、「土砂災害による人的被害をゼロにする」という同社理念のもと、森林・林業に関心がある個人と企業のお客様に対して、「森林に関わるプロダクト・サービス」を提供する。

・同社代表の奥川氏は、高校時代に和歌山県にて紀伊半島大水害(2011年)で被災した経験をきっかけに、災害対策に関心を持ち、「森林×防災」の観点から会社を立ち上げることを志した。2019年より個人事業として設立、2021年に法人化を行った。

「MODRINAE(戻り苗)」を通じた森林保全・災害リスクの軽減

・同社は、一般顧客や顧客企業に対し、森林保全に関わるプロダクトやサービスを販売している。その販売料や企画料などから、林業事業体に森林整備の費用を一部支払い、蓄伐地(すべての樹木が伐採された森林の区画)へ再造林の補助を行う。

・より多くのステークホルダーを巻き込み、森林への関心を高めるために、植林用苗木をどんぐりから観葉植物として育てていただく「MODRINAE(戻り苗)」という製品を開発した。全国の様々な企業や個人に販売し、オフィスや自宅で2年間苗木になるまで育てる。育った苗木はウバメガシという樹種であり、和歌山県に植栽する。紀州備長炭の原木としても今後活用が期待される樹種である。

・「MODRINAE(戻り苗)」開発のきっかけは、同社代表の奥川氏が、土砂災害リスクの軽減を目指すうえで、まず、蓄伐地にお



【流域治水】

ソマノベース・MODRINAE(戻り苗)について
日経新聞の流域治水の分野で取り上げていただきました。

2023/11/27 4:15

about:blank

流域治水はあらゆるステークホルダー(利害関係者)の協力なしには成立しない。関係する事業は山間部から都市部まで広範囲にわたり、行政の取り組みや住民の自助努力だけでは解決できない難題が山積し、柔軟な発想といたった民間ならではの得意分野で解決に貢献する役割を担っている。

2011年の紀伊半島大水害で中学の後輩を亡くした。災害や防災に関心を抱き、10代のうちから林業の現場を回り、ビジネスコンテストの運営などにも関わった。2年前に地元のと歌山県でスタートアップ「ソマノベース」を立ち上げ、災害リスクの低い山林を増やすための事業を始めた。

山は土壌に雨水を蓄積する機能がある。森林保全などの「治山」とテムの整備を合わせることで、流域全体の流量を最適化できるといわれる。治山は流域全体のうち、河川に雨水が流入

ビジネスで持続性高める

する「集水域」の取り組みだ。国も「森林の浸透・保水機能」を生かす治山対策の大事さを指摘している。

治山の主な担い手は林業を営む地域住民だが、少子高齢化で将来を見据えた山づくりが難しくなっている。一定区域をまとめて伐採する「皆伐」をしても、伐採後に植林されず荒れている山は多い。放置されれば治水機能が下がり、土砂崩れのリスクも高まる。

ソマノベースは健全な山を育むため「戻り苗」事業を手掛けている。紀州備長炭の原料でもある広葉樹の「ドングリ」や「紀州材」と呼ばれる良質なヒノキの針を販売し、観葉植物として2

ソマノベース代表 奥川 季花氏

年間管理してもらおう。その後回収し、放置された山に植えて森林再生を目指す。戻り苗の顧客の大半は市街地の住民だ。木を育てる行為を通じて流域全体とのつながりを感じ、防災意識が高まったという声もある。

治山や林業に限らず、防災や災害分野は「もうからない」で民間進出が少なくない。関係者の自助努力や補助金に頼る状況から抜け出せていないが、植林も発想次第でビジネスが成り立つ。企業は創造力やマネタイズの経験を生かし流域治水に貢献できる。持続可能性を高めるため、課題解決力がある企業の参画が欠かせない。(聞き手は宮田圭)



おくがわ・ときか
2018年同志社大商学部卒、ボーグレス・ジャパン(東京・新宿)入社。21年林業を手掛けるソマノベース(和歌山県田辺市)を設立

【引用先】

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/r5_minkan/pdf/017.pdf

【引用先】2023.11.27掲載

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ076380140U3A121C2TCT000/>

はじめに

- ー ソマノベースについて
- ー ソマノベースが取り組む課題
- ー ソマノベースの活動方針

サービス紹介

- ー サービス一覧
- ー toC事業
- ー **toB事業**

事例紹介

その他の取り組み

MODRINAE

toC

苗木を育て、森に戻す観葉植物

どんぐりから木を育て、育てた木を森に戻す新しいカタチの観葉植物です。



MODRINAE for BUSINESS toB

オフィスで苗木を育て、森に戻す観葉植物

オフィスにしながら森林保全に貢献できる新しい形の観葉植物を提供します。



アドバイザー

toB

知ることから、森林に関わる取り組みに向き合う

これまで当社が蓄積してきた森林の知識や林業関係者とのつながりを活用し、森林に関する新規事業の立案や森林保全活動等を支援します。



研修・ワークショップ

toB

研修を通して、環境問題を自分ごと化する

森林産業・林業界に関わる専門知識や取り組みについてのインプットとアウトプットの場を提供します。



森林研修・林業ツアー

toB

現場を巡ることで、森林・林業のリアルを学ぶ

森林をフィールドにしたツアーを通して森林や林業についての学びを提供します。



コミュニケーション促進

toB

戻り苗を活用して、顧客との関係構築を設計

「戻り苗」を、貴社オリジナル仕様に。デザインや樹種・山林の場所をカスタマイズします。



広報支援

toB

森林保全の取り組みを通して、SDGsの取り組みを発信する

当社として様々な取り組みをご支援するとともに、その取り組みの発信も合わせてご支援します。



森林保全スポンサー

toB

2024年リリースに向けて
現在準備中

都市緑化

toB

2024年リリースに向けて
現在準備中

MODRINAE for BUSINESS

オフィスで苗木を育て、森に戻す観葉植物

ラダーシェルフ式として、オフィスで育てやすいよう24本の苗木を一カ所で育てられるプロダクトです。業種・業界問わずどのような企業さまでも取り組める森づくり活動をサポートいたします。

¥400,000(税抜)



会社・部署単位の課題やニーズに沿って実施いたします

- 森づくりに関わりたいが何から始めればいいのか分からない
- 社会貢献活動を社員をうまく巻き込みながら行いたい
- 継続的に取り組める活動を行いたい
- 寄付による貢献などではなくもっと自分ごと化できる取り組みがしたい 等

Point 01

どこからでも始められる
森づくり活動

Point 02

SGDs・防災などに対する
社内の意識浸透

Point 03

育苗を通じた社内外の
コミュニケーション促進

アドバイザー

知ることから、森林に関わる取り組みに向き合う

「森林との繋がりや森林保全の課題」などを学べる講演や、「森林を絡めた事業開発・本業と森林保全を繋げる仕組みづくり」などを促進するご支援を行います。



会社・部署単位の課題やニーズに沿って実施いたします

- なぜ自社が「森林保全」「防災」に関わる取り組みを行うのかを社員に理解してほしい
- 森林産業・林業界に関わる専門知識をインプットさせたい
- 自社のSDGs・本業と森林が、どのようにリンクしているのか客観的に話をしてほしい
- 本業や新規事業に森林産業や林業を絡めたい 等

Point 01

SGDs・森林保全などに対する
社内の意識浸透

Point 02

森林産業・林業の
実態や課題のインプット

Point 03

社会課題・物事における
自分ゴト化

研修・ワークショップ

環境問題・社会課題を自分ごと化する

本事業は、「森林保全・林業」「防災」「SDGs・CSR」に関わる取り組みや事業に関心がある企業様に向けて、研修やワークショップを提供いたします。



会社・部署単位の課題やニーズに沿って実施いたします

- なぜ自社が「森林保全」に関わる取り組みを行うのかを社員に理解してほしい
- 森林産業・林業界に関わる新規事業を立案したい
- 本業のリソース・強みを活かした新しいアイデアを生み出したい
- 社員一人一人に考えさせ、アウトプットする機会を創りたい 等

Point 01

ニーズや課題に合わせた
様々なプラン

Point 02

森林産業・林業に紐づけた
新しいアイデアの創出

Point 03

自らアイデアを
アウトプットする機会

森林研修・林業ツアー

現場を巡ることで、森林・林業のリアルを学ぶ

森林体験・地域との連携・森林保全・研修など、森林をフィールドにした様々なプランのツアーを通して、森林や林業についての学びを提供いたします。



会社・部署単位の課題やニーズに沿って実施いたします

- 社員研修として行いたいため、植林以外のコンテンツも実施したい
- 旅行会社とのやり取りは工数がかかるため、企画工数はできる限り削減したい
- 社員レクリエーション要素も欲しいため、観光スポットやレジャーも掛け合わせたい
- 記念として残るように、横断幕や木杭の用意、社員撮影をお願いしたい 等

Point 01

普段は入れない林業現場での
貴重な植林体験

Point 02

旅行会社との連携
手配の工数削減

Point 03

ご要望に合わせた
様々な体験コンテンツ

コミュニケーション促進

戻り苗を活用して、顧客との関係構築を設計

自社事業のターゲットに合わせてカスタマイズした戻り苗を通じた顧客とのコミュニケーション促進、本社のある地域の山に返す新しい地域版の戻り苗の開発など企業に合わせてカスタマイズした戻り苗と森林保全の取り組みを提供いたします。

会社・部署単位の課題やニーズに沿って実施いたします

- 社内の取り組みではなくお客様と取り組めるものがほしい
- お客様向けのギフトがほしい
- 自社の事業拡大のために戻り苗と連携したい
- お客様とのコミュニケーションや関係構築において課題がある 等

Point 01

課題やニーズに合わせて
戻り苗をカスタマイズ

Point 02

顧客とのコミュニケーション促進

Point 03

顧客満足度のupの取り組み

広報支援

森林保全の取り組みを通して、SDGsの取り組みを発信する

取り組みを積極的に行っているにもかかわらず、うまく発信できず困っている方や、発信を前提に取り組みを始めたい方向けに、取り組みの実施だけでなく広報までお手伝いいたします。

会社・部署単位の課題やニーズに沿って実施いたします

- 社内に広報の体制が整っておらず取り組みの発信に困っている
- 発信は行っているがうまくリーチできていない
- 発信後の影響の分析や改善まで行いたい
- 森林・林業の専門知識がわからず発信内容が薄くなっている 等

Point 01

発信から分析・改善までを
まとめてサポート

Point 02

ご予算に合わせた
オーダーメイドのサポートプラン

Point 03

森林・林業の専門知識や情報の提供

はじめに

- ー ソマノベースについて
- ー ソマノベースが取り組む課題
- ー ソマノベースの活動方針

サービス紹介

- ー サービス一覧
- ー toC事業
- ー toB事業

事例紹介

その他の取り組み

事例

MODRINAE

社員向けセミナー

企業向けワークショップ

植林ツアー

「戻り苗」で未来の森づくりを開始



スタッフ一人ひとりが、
植林用苗木の育苗をスタート。
将来的にはゲストや
地域の方々との取り組みも。



ソマノベース

株式会社アワーズ（アドベンチャーワールド）様

—「人・動物・自然 すべての生命にSmileを350名の社員が、未来の森を育てる」—

導入内容

MODRINAE（木鉢式/レーザー加工入り）350個

導入目的

- ・サステナブルなパークづくりを推進するにあたり、
全社員1人1人が自分ゴト化して取り組めること
- ・地域の森林を再生し、生態系のバランスを取り戻すことに貢献できるため
- ・パーク開園45周年を迎えるにあたっての社員への記念品贈呈



動物と名前が彫刻されたオリジナルの木鉢



ソマノベース × ADVENTURE WORLD

【インタビュー記事はこちら📄】

<https://note.com/modrinae/n/n0f30cb705f47>

事例

MODRINAE

社員向けセミナー

企業向けワークショップ

植林ツアー



池田鉄工株式会社様

—「従来のCSR活動からの脱却。社員一丸となった環境保全活動を。」—

導入内容

MODRINAE 16個 社員向けセミナー

導入目的

- ・今まで行ってきたCSR活動（清掃・ゴミ拾いなど）ではなく、「環境保全」「SDGs」「脱炭素」について、会社全体で継続的に取り組んでいける仕組みが欲しかったため
- ・MODRINAEをスタートするにあたって、社員理解を図るのが懸念点としてあったため、セミナーを実施してから育苗を開始。



事例

MODRINAE

社員向けセミナー

企業向けワークショップ

植林ツアー



株式会社コンステックホールディングス様 — 森林保全活動を社員とともに 継続的に取り組むために —

導入内容

MODRINAE 100個 社員向けセミナー 植林ツアー

導入目的

- ・ 海外への植林活動の支援を行っていたが、もっと自分たちでできることをしたい。
- ・ 今まで様々なイベントを行ってきたが、単発で終わり継続性がなかったこともあり、気軽に取り組みながら、SDGsに対する意識を社員一人一人に浸透させていきたい。



【インタビュー記事はこちら📄】

<https://note.com/modrinae/n/n599c6a587891>

事例

MODRINAE

社員向けセミナー

企業向けワークショップ

植林ツアー



一般社団法人日本的経営研究会様

一会員の経営者に社会課題についてインプット・アウトプットできる機会をー

導入内容

企業向けワークショップ
植林ツアー

導入目的

・業種業界の異なる経営者をお呼びし、森林産業・林業界で起きている課題を知り、各人事業に落とし込める機会を創りたい

ワーク内容

植林ツアー・専門家との交流を踏まえ収集した情報をもとに、「森林課題」×「自社リソース」を掛け合わせたブレインストーミングから、事業アイデアへの落とし込みまで行うワークショップを実施。

一般社団法人 日本的経営研究会

FOCMF・経営者ネットワーク・MODRINAE・WAVE

社長・副社長・理事・監事の職域に限定し開催

2023年11月26日(日)～27日(月)

主体性を学び、問題解決を思考する

和歌山森林ツアー

ソマノベース実行委員会からのご案内。学び、共に問題解決を志す。～

貴社様は、2014年設立の、社会課題の解決を目指す「ソマノベース」実行委員会の一員として、共に問題解決を志す。貴社の強みを生かして、社会課題の解決に貢献することを期待しています。

はじめに

- ー ソマノベースについて
- ー ソマノベースが取り組む課題
- ー ソマノベースの活動方針

サービス紹介

- ー サービス一覧
- ー toC事業
- ー toB事業

事例紹介

その他の取り組み

Case study

01

熊野自然学校概要書



田辺市の小学校向けの教育プログラム

「熊野自然学校」のカリキュラム・教材を作成。

熊野の「今の森」と「100年前の森」を絵本に。

子どもたちが地域の森に関わっていく未来をつくるため
自分たちで森への関わりを考えるワークショップを作成。

座学授業を受けた後は、フィールドワークとして

地元の製材所見学や山での植林を行った。

Case study

02 放課後デイスクールHEARTY様

京都市の放課後デイスクールHEARTY様にて

MODRINAEを活用した木育を開始。

保護者説明会を実施し、有志で子ども達が参加。

1週間、森林教育weekを設定し、森林に関する読み聞かせやどんぐりを見分ける遊びなどを行った。この秋からMODRINAEに参加が決定。



Case study

03 同志社大学と連携した林業ゲームワークショップ

同志社大学商学部の学生達に森林に関する勉強会を実施。

林業家による講義や、林業に関わるワークショップの実施、和歌山での植林体験などを実施し、その後林業ゲームを開発。

大和ハウス工業の産官学共創プロジェクト「コトクリエ」や同志社中学、サイエンスアゴラなどで小学生を対象に林業ゲームを使用したワークショップを実施。

その後、子ども達の意識の変容など効果検証を行った。



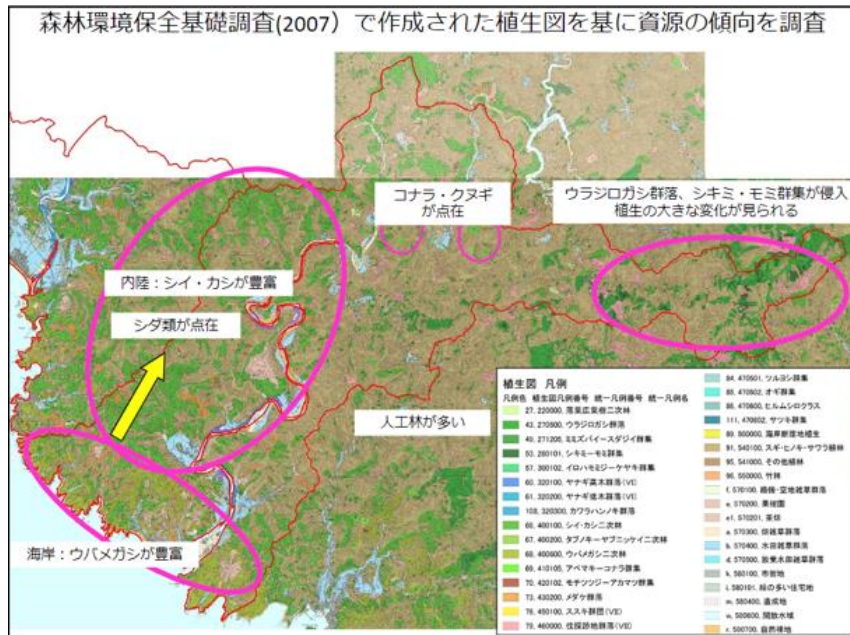
Case study

04 白浜町山村資源調査

白浜町SDGs協議会様の受託事業として

白浜町内の山村資源調査を2年間実施。

住民ヒアリング・山林立地調査・植生調査等を行った。



Case study

05 防災ラーニングジャーニー・防災国体

女性経営者とともに災害現場や森林の様子をめぐる体験ツアー

「防災ラーニングジャーニー」を実施。豊かな森林と災害現場となった森林をめぐる。

過去10社ほどの経営者が参加。

他にも防災国体に共同で出展（パネルディスカッション実施）し、

森林と災害の関係についてディスカッションを行う。



Case study

06 和歌山県内の高校との連携

紀州備長炭を使用した焙煎コーヒーの生産と販売を行う日高中津高校の皆さんと森林保全活動を開始。

森林×コーヒー販売で授業や森林体験を今年度実施。

